

千の風になったあなたへ贈る言葉

野寄 眞砂子（神奈川県横浜市・七十七歳）

貴方がそちらへ旅立って今年三月でまる二十一年経ちました。あつという間の二十一年余でした。

あの日から五年後に靖博のところに初孫の航平が生まれて十五年経ち、今年高校へ入学しました。あなたがせめて孫の顔を見てその腕に抱いてからだだったならよかったのにと、とても残念に思いました。

その孫が背丈も伸び少年から青年へと大人の階段を上り始めましたよ。のりこもあなたが旅立ってから九年後自分が納得のいく人と巡り合い、結婚して充実した暮らしをしています。子供たちのことも安心して下さね。

あなたとは叶わなかった海外旅行も、のりこことヨーロッパから始めてドイツ、チェコルーマニア、イタリア、ハワイ、ベトナム、など十回行ってきましたよ。でも一度でいいからあなたと行きたかった！いつの日かわたしがそちらへ行ったなら今度は果たせなかった世界一周の船旅をしましうね。

そうそう三年前にわたしは人間ドッグを受けて乳がんを宣告され手術しました。子供たちにも千葉の弟夫婦にも、忙しい中を氣遣ってもらい、おかげで体力も気力も回復し三年経ちました。いまはずっと続けていた太極拳を半分ボランティアに教えて、十六年目の教室、七年目の教室、三年過ぎた教室と三教室で仲間に喜ばれて今の私の生きがいになっています。月一回の俳句の会も七年たち、毎月締め切りに追われながらも楽しんでいきます。五月の句会では「ひと茹での露の緑や夕暮るる」が最高点句になりましたよ。

昨日は月二回の健康マージャンの日で上手な方々に交じってこちらも下手の、なんとやらでおしやべりと頭と指の運動を楽しんできました。あなたには私が麻雀を覚えて楽しむなんて驚きですよ！
パソコンもウインドウズ10にかえてパソコン教室に行き勉強中です。

今日はあなたに初めてのお手紙でした。意外とたくましく前向きで安心しましたか？
たまには夢にでも会いに来てくださいね。お待ちしています。

眞砂子より

平成二十八年五月二十七日